

## 【巻頭言】

# 被服衛生学部会の記念すべき次の一歩へ

諸岡晴美

京都女子大学家政学部

被服衛生学部会誌を発行して 30 年目の節目の年を迎え、「被服衛生学部会誌 30 周年記念実行委員会」が立ち上がりました。その委員長としての役割を仰せつかり、浅学の身でこのような重責には耐えられないとの思いをもちながらも、副委員長である菅井清美先生、三野たまき先生をはじめ、30 周年記念実行委員会の皆さまの多大な支援を受けながら、なんとか務めさせていただいております。

記念事業として、記念誌の発行、記念シンポジウムの開催、そして出版本の発刊を企画して着々と事業を進めてまいりました。

これらの事業を実行する中で、種々の協力依頼に対して、部会員の皆さま方が快くお引き受けくださることの有り難さを感じております。また、何よりも部会長である成瀬先生をはじめとし、田村照子先生、諸先輩方が非常に有意義なアドバイスをくださることにも感謝の念でいっぱいでございます。

私の大先輩である伊藤紀子先生が「この部会は、若い人も自由に発言でき、活動できる場なのよ。雰囲気がとてもいいのよ。」と、仰られていた意味を今ひしひしと感じております（私自身は若くはありませんが・・・）。

20 年という月日は、部会発足当時を知る多くの方がいる。40 年という月日は、退会される方が多くなる。その意味では、30 年こそが節目の年というにふさわしく、発足当時を思い、来し方を振り返り、さらに次の大きな一歩とする記念の年といえるでしょう。

この第 31 巻は、先輩諸氏、そして同輩、後輩の方々とともに手をつなぎ、明日に向かって更なる一歩を踏み出す輝かしい部会誌であることをあらためて認識したいと思っております。

奇しくも部会のこの記念すべき年に、未曾有の大災害が起きました。3.11 の東日本大震災、それに続く大津波、原発事故など大変痛ましいことが

相次ぎました。電力不足を受けて、衣服による体温調節機能があらためて重視された年でもあります。電力を使用せず、しかも個に応じた調節が可能な衣服に、クールビズ、ウォームビズを上回る、スーパークールビズ、スーパーウォームビズが求められています。

本部会は、「衣服と健康の科学」を合言葉に部会員それぞれが研究を重ねてきました。この研究成果が社会に活かされ、この国難のときに役に立つとしたら研究者としてこれ以上の喜びはないと思います。一人ひとりの研究成果を学術雑誌のみでなく、社会にわかりやすく発信していくことも部会の重要な役割であるように思います。一人ひとりの力は微々たるものであっても、部会員がまとまって総合的な視野に立って発信していくことこそが何より重要です。

幸いに、企画委員長の潮田先生を中心に来年度の公開講座に向けて、科研費の申請がなされております。被服衛生学部会では、「衣服と健康の科学最前線」のテーマで、平成 8 年度から平成 16 年度まで隔年に、東京、大阪、名古屋、神戸、富山で実施してきた経緯があります。ここ数年は実施されていませんでしたが、また再開されようとしております。なお、科研費の研究成果公開促進費に採択されなかった場合にも、規模を小さくして実施する計画になっておりますので、部会員の皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

「衣服と健康の科学」がますます重要になっている昨今、先人が築かれた被服衛生学部会のますますの発展を祈念して、学会員一丸となって次なる第一歩を大きく踏み出しましょう。

---

<連絡先>

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35  
京都女子大学 諸岡晴美  
電話・FAX：075-531-7174  
eメール：morooka@kyoto-wu.ac.jp